

【地域の概要】

- 美濃加茂市北部の中山間地域
- 町の中央部分には優良で広大な水田地帯が広がり、その周辺に畑が広がっている。
- 高齢化による遊休農地化が畑で広がりつつある。
- 正眼寺や旧櫻井邸などの歴史遺産が存在している。

①取組開始前の状況や課題

○そば栽培提案

畑の遊休農地化が進行する中、伊深町から古川町へ嫁がれた女性が帰省した際に、遊休農地が増えていることに心を痛められ、農業委員と推進委員の2人に古川町で育てられている、そば「飛越1号」の栽培を提案された。

○遊休農地でのそば栽培

「飛越1号」は、飛騨市古川町のそば愛好者グループ「奥飛騨朴念そばの会」が開発した新品種であることからその会に指導を求め、遊休農地での栽培が始まった。

②取組内容

春そばの栽培

- 約1,000㎡の遊休農地にて栽培
- 10kgを収穫

秋そばの栽培

- 約2,000㎡の遊休農地にて栽培
- 20kgを収穫



そば畑の中の委員のおふたり

- 種時や草取り、収穫の時には、伊深まちづくり協議会が参加者を募り、そばづくりに興味のある方が集合
- 収穫したそばは、伊深交流センターにて地元のそば打ち名人による、そば打ち道場(講習会)や、年越しそば打つ会が開催された
- 若い参加者を中心に、多くの方がそば打ちに親しんだ

③今後の展開と方向性

そばによるコミュニケーションが育むまちづくり…

- 来年度は、約3,000㎡の遊休農地にて栽培を計画している。
- 収穫したそばによる様々なイベントが検討されている。